

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270300546		
法人名	有限会社グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」にしありえ	ユニット名	
所在地	長崎県南島原市西有家町龍石1417番地1		
自己評価作成日	2022年 9 月 1 日	評価結果 市町村受理日	2022年 12 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報 リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_pref_topi&yosyo_index=true
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フロー薬院2F		
訪問調査日	2022年 11 月 1 日	評価確定日	2022年 11月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

山間部で住民も少ないが、その分地域住民との助け合いや声の掛け合いが頻繁にされ、いろいろな事に協力していただけます。自然豊かで庭でのランチタイム、利用者の皆さんと共に山菜取りや草取りなどコロナ禍で外出できない分、地域で楽しめることを探しながら生活しています。一人一人のご利用者皆様にあった生活ができるよう職員一同統一したケアを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

南島原市西有家町にあるグループホーム“「城下」にしありえ”は、周囲が自然豊かで、玄関の外で野鳥の鳴き声を聴きながら食事をしたり、筍掘りやわらび採り等もされている。四季折々の行事や慣わしを継続し、毎日のドライブも日課となっており、外部評価で訪問した日も玄関の外で干し柿作りを楽しまれていた。コロナ禍も変わらず楽しい生活となるためのアイデアを増やされており、天気の良い日は人混みを避けて毎日外出し、ドライブや花見等を楽しまれている。職員が電子ピアノを弾いて合唱を楽しまれ、ご利用者個々の生活歴を大切に編み物をされる方もおられ、毎日の散歩や自転車こぎ訓練を行い、心身の維持向上に繋げている。ご利用者の体調に応じて適宜休息していただいており、寝具類は日光に干し、洗濯を行い、気持ちよく休んでいただいている。2021年8月から新管理者が就任しており、今後も職員同士のチーム力を更に強化していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項 目		取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いており、 信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで 生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「城下」新聞には、毎回施設理念を載せて全職員が共有できるようにしている	開設時に作られた「老いても障害を持っても当たり前に分らなく普通に暮らしたい」と言う理念を大切にされている。ご利用者と干し柿作りをされたり、電子ピアノを職員が弾いて、楽しく唄われている。食事の配膳係や食器洗い係、また家族へ送るための編み物を行うなど、思い思いの生活をしていただいている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の神輿祭りに参加していたがコロナ渦で中止になっている	法人内施設（放課後等デイサービス）の子ども達と交流している。ハロウィンではご利用者も仮装し、楽しいひと時を過ごされたり、敬老会では子ども達の作品贈呈会も行われた。隣家の方から野菜や柿等の差し入れがあり、地域情報も教えて頂いている。高校生の実習も受入れ、ホーム内で夏祭りを楽しむこともできた。コロナ以前は保育園児との交流があり、地域神輿の立ち寄りやお話会、こども消防パレード見物、蔵めぐり等を楽しんでいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の徘徊による行方不明者への搜索の呼びかけ	この2年間、感染状況に応じて通常開催が6回、書面審査が5回行われた。書面開催時は議事録と新聞、ご意見を頂く返信用紙を同封している。地域代表の方は隣家の方であり、日頃から地域情報を教えて頂いている。ホームの取り組みや行事報告、職員の研修報告と共に、災害対策や地域行事などの話し合いをしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者から連絡はないが、代表の知り合いが市町村職員にたくさんいるのでその方々より情報は来ている	コロナワクチンの接種申し込みの方法など、管理者が南島原市に疑問点を相談している。南島原市の職員が運営推進会議に参加して下さり、ホームの取り組みを理解して下さり、地域包括支援センターの方とも、空き情報等を情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、年4回の会議、研修等を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や勉強会を続けると共に、職員のストレスケアも大切にしている。ご利用者の生活歴に沿ったケアを行うと共に、仕事内容の組織図の検討を続けている。日勤帯で施錠を行っていた時間があり、法人内の身体拘束廃止委員が施設訪問チェックを行い、ご利用者への聞き取りも行い、最適なケアに向けた検討が行われた。ご本人の性格や生活背景を理解し、ご本人の想いに寄り添った生活になるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加し日頃から言葉や身体的虐待がないよう管理者・全職員が注意し、少しでも身体拘束行為と感じたら付箋に書いて提出する		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政担当の方からお話を聞く機会があり理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表や管理者が相談時に詳しく説明をし理解納得をしてもらえるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の際、お気づきになられた点や意見などをおたずねしている	コロナ禍も玄関先や窓越しの面会を行ったり、電話で情報交換を行い、体調や暮らしぶりを報告している。新聞（2か月に1回）を作成し、担当者から手書きのお手紙を郵送している。家族から「法事に参加させたい」という希望があり、家族と参加された方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議やスタッフ会議に代表が参加して要望を聞き出す。	職員の要望を伺い、日・祭日の手当を付けたり、子育て中の勤務時間の調整をしている。職員会議・各担当者会議（行事・防災・身体拘束・虐待廃止委員会等）を行い、職員個々に意見やアイデアを出し合い、役割を担って頂いている。少しでも意見を出しやすいように、個別に話を聞く機会も作られている。	今後も職員間の言動の在り方を振り返り、意思決定のプロセス等を明確にしていくと共に、更なるチームワーク作りを全員で考えていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	生活環境に合った労働条件で雇用し有資格者には手当をつけてくださる。またいろいろな手当をつけてくださる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修で勉強の機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦で交流の機会がない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者への聞き取りや、基本情報を基に必要とされる支援を確保し安心して過ごされるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事や困っていることなどを聞き取り信頼関係が保たれるようしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の思いを第一に考え、その人にとって一番良いサービスを提供できるように支援している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などとはできるだけ一緒にいきともに一緒に暮らししているという環境作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いやご意見をしっかりと聞き職員の思いも伝え全職員で共有し共に支えて行ける信頼関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問時にはゆっくり過ごしていただけるよう支援している	馴染みの神社や山、海沿いのドライブを楽しまれている。職員とお墓参りに行かれたり、馴染みの鍼灸院にお連れする方もおられる。コロナ以前は友人や元同僚の方々が来て下さり、居室やリビングで団欒されていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が困難な方は、職員が間に入り共に生活していけるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご家族や担当者には情報を提示し生活方法などの助言に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の希望や意見に添えるように努めている。コロナ渦で困難な場合もあり極力要望に添えるようにしている	居室や入浴時など、1対1でゆっくりと会話をするようにしており、表情や行動しぐさなどを観察することで、思いや意向を把握できるように努めている。「どこかに連れていって」等の要望が多く、島原や雲仙の紅葉、季節の花見等を楽しまれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や生活歴により馴染みの暮らし方を把握し施設でもこれまでの暮らしが継続できるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを活用し、その日の生活状況で特に変化があったことを記録し情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のモニタリングや毎日の生活の中で気づきや課題とケアのあり方について話し合いご家族の意見も参考にして介護計画を作成している	ご本人や家族の意向と共に、職員全員の意見を反映するように努めている。歌、体操、歩行訓練等も行われ、洗濯物のしわ伸ばしや干し方を教えて下さる方もおられ、日々の役割を計画に盛り込まれている。24時間の日課表に各活動の「できること」「留意点」も増やされている。介護日誌の“キーワード”欄に計画内容を転記し、実践状況を記録している。	今後も【基本情報1】に生活歴を増やすと共に、アセスメントにADL(立位・歩行等)、IADLの「能力」「できそうな事(可能性)」「介助理由」「目標」「解決策」等を増やしていく予定である。2表に「本人」「家族」を追記し、今後も家族と一緒に計画の話し合いを行っていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入時、大切なところは色を変えて書いたり、申し送りノートに記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に合わせ、支援させていただいている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で出来ていないが、終息したら実行していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ本人の希望するかかりつけ医にしている	法人の看護師（週1回）や菜の花クリニックの看護師（必要時）の訪問があり、ホーム内で点滴や喀痰吸引、カテーテル交換等が行われている。毎日協力医の往診があり、緊急時にも対応して下さる。体調変化時や内科以外の通院介助は職員が行い、家族と受診結果を共有している。薬剤師が薬を届けて下さり、情報交換できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時に連絡し受診が必要であれば主治医へ連絡し往診をお願いしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い入院中状態などを病院に尋ねている。退院後も病院との連絡を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に看取り支援の説明は行っている。看取り希望の場合や重度化の恐れがある場合などは、ご家族や主治医、管理者で十分に話し合い希望に添えるような支援をしている	希望に応じて終末期ケアが行われている。医療の希望も把握し、24時間体制で代表や管理者、かかりつけ医、クリニックの看護師との連携ができている。体調に応じて家族間の話し合いをして頂き、今後の方針を検討すると共に、コロナ禍も家族と一緒に誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議などでも話し合い急変時の対応など想定するようにしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年6回以上風災害、防災訓練を実施している。消防署や消防団の協力参加している	台風時に2回、法人内の多目的ホールへ避難した。避難の都度、反省点があり、次回に活かすように努めている。2ヶ月毎に自主訓練を行い、毎年11月9日（119の日）に、消防署、消防団、地域住民と夜間想定訓練をしている。防災委員がBCP（事業継続計画）ガイドラインを作成し、災害に備えて水・米・食料・電池・非常食・救急用品・防火頭巾 災害バック、手動式ラジオ等を準備しており、停電時は代表が発電機を持参して下さる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を尊重し声掛けや言葉かけをゆっくり丁寧に言い態度には十分に注意して支援する	ご利用者の事を話す場合は小声で話したり、自室で相談させて頂いている。身体拘束に繋がる言葉かけをしないように努め、「ちょっと待って」等の言葉の前に理由を伝えている。トイレ誘導時や排泄介助時の声かけに留意し、入浴時には羞恥心に気を配り、個人情報管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中でご利用者が自己決定したりできるような場面づくりを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者優先を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や髪形など利用者の好みを尊重しその方らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みを把握し、おいしく食事を食べて頂き、楽しい食事時間を提供できるよう支援している	調理専門職員が美味しい料理を作られている。1日・15日は赤飯等を楽しみ、栄養バランスに配慮しながら、その日に献立を考えている。調理担当者が休みの日は職員が作り、月2日ほど配食を利用している。ご利用者と一緒に、買物や下ごしらえ、下膳、食器洗い、食器拭き、片付けをして下さり、筍掘りやわらび採りに出かけ、フキや野菜の皮むき等もして下さる。	今後も畑での野菜作りを再開し、ご利用者の方々に野菜の栽培や収穫などの役割作りを増やしていく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関とも相談しながら量や水分量の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの力に応じた支援を毎食後行い口腔内の清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し早めのトイレ誘導を行っている	排泄が自立している方や、布の下着(パッド)を着用する方もおられ、パッド等の使用も個別に検討している。尿意・便意を把握し、事前誘導や2人介助も行われ、快便に繋がる方やパッドの枚数が減った方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材の使用や乳製品の使用を心がけている。又体操や運動で便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の利用者の体調を見ながら支援している	お風呂好きな方が多く、入浴時は会話や歌を楽しまれ、菖蒲湯や柚子湯を楽しまれている。広いお風呂であり、湯船の階段を降りる時は職員が支える時もあり、2人介助も行われている。できることは、ご自分で洗われている。今後も2人で仲良く入浴できるように努めていくと共に、入居の方の入浴頻度も増やしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活習慣や状況により休息していただいたり、寝具類は定期的に日光に干し洗濯を行い気持ちよく休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法は服薬管理表の説明書で確認し理解している。また医療機関にも相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴から編み物や毎日の散歩、自転車漕ぎ訓練をしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけたり近隣の公園や外庭の散歩を支援している	天気の良い日は庭で過ごし、昔話が弾まれている。人混みを避けて毎日ドライブを楽しまれ、ご利用者と握り飯やお弁当を作り、「みそ五郎公園」で食べたり、季節の花見を楽しまれている。コロナ以前は小浜の足湯、大村の菫浦見学等にお連れしたり、家族と外食や温泉(雲仙)に行かれる方もおられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は行っていない。施設の行事では金券を使って買い物できる楽しみを支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に換気を行い季節の花や利用者の作品を飾ったりしている	特に玄関を綺麗にするように心がけている。玄関や廊下、リビングに観葉植物が置かれ、行事や外出の写真を貼り、会話のきっかけになっている。散歩時に花を摘み、花好きな方に季節のお花を活けて頂いている。季節に応じてお雛様や鯉のぼりなどを飾り、季節や月がわかるように努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が思い思いに過ごせるようにデッキや廊下にも椅子をおいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたものを自由に持ち込んでいただき、使い慣れたものを生かして心地よく過ごせるよう支援している	洋室と和室がある。電動ベッドも4台あり、体調に応じてエアマットを使用している。筆筒やいす、時計などと共に、家族の写真等を置かれており、観葉植物も元気に育っている。居室の入り口に段差がある所もあり、ご本人が手すりを持って出入りされている。お部屋で編み物をされる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には大きな名札を張り、各場所にも大きな文字で表示している		